

保護者に向けて

横堤中学の保護者の皆様、はじめまして週刊大阪日日新聞の松山と申します。地域の無料新聞としてご存知の方もいるかと思えます。今回、1年生を対象にした特別授業に参加しました。「世の中にはこんなお仕事があるんだよ」と、あらゆる職業の人が実際に学校に足を運び生徒とコミュニケーションを取るといった内容です。

この企画授業は本当に素晴らしい。

横堤中学に通う子どもはラッキーです。子どもにとって社会の人と直接かかわる機会はあるようで、実は皆無です。子どもたちにも新鮮だったようで、食い入るように話を聞いてくれました。

僕自身も息子がいますが、子どもの進路に関しては悩みます。将来どんな仕事に向いているのかな、親として何がしてやれるだろう、と悩んだ結果、何もしないことが多いです(涙)。家庭内で「就職までを考慮した、進路を模索する」作業は難しいです。なんとなく高校、大学に進学するケースのほうが多いのが実情です。理想を言えば、目標を持って進路を選んで欲しいですね。今回のような授業が増えると「将来〇〇になりたいから、高校で勉強して、大学行って〇〇勉強すんねん」と、言い出す子が増える。そういった授業でした。

仕事柄、様々な地域を取材しますが、鶴見の子はピュアです。各教育機関の先生方も口を揃えて同じ表現をします。目標さえ持てば伸びる子ばかり。今回授業を終えて、目標を見出せる環境を作るのが、「親としてできること」のひとつだと、僕自身教えてもらいました。

週刊大阪日日新聞社 松山兼治